

松下幸之助の **ヒトモノカネ**

昭和61年12月8日 第3種郵便物認可  
平成19年2月1日発行 毎月15日発行  
第22巻 第2号(通巻266号)

# BOSS

月刊 **ボス**

<http://keieijuku.net/>

2007年  
**2月号**  
800円

**特集**

## 松下幸之助の世界

幸之助の **ヒトづくりモノづくり金銭哲学**



直孫・松下正幸が語る  
松下電器副会長  
**素顔の幸之助**

座談会・松下政経塾OB代議士  
**幸之助が与えてくれた  
“根拠のない自信”**

長野智子の好奇心インタビュー  
**「ナナロク世代」の旗手が  
目指す「仮想ディズニーランド」**

ドリコム社長 **内藤裕紀**



**杉田亮毅** 日本経済新聞社社長

**「創刊130年  
日経新聞はこう変わる」**

# 幸之助が「政経塾」に託した日本変革の夢

松下幸之助が、政財界の指導者を養成するために私財を投じて創設した松下政経塾。そのOBは実業界や研究機関など多岐にわたるが、半数は政界に進出、政治家や議員秘書として活動している。政経塾出身の国会議員は衆議院二八名、参議院二名の三〇名。卒業生たちに松下イズムはどう受け継がれているのか。現役国会議員五人の話を聞く。

## 松下幸之助の下で学ぶ

—— 今回のメンバーのなかでは松原さんが二期生で、一番の先輩格ですね。

松原 当時は草創期でしたから、松下政経塾はどのように運営していたのかという頃でした。「塾生・塾訓・五誓」の中に、「自修自得」という言葉がありますが、自分たちでどうカリキュラムを組むかを含め

て、全部考える。与えられたカリキュラムは、毎朝掃除をすることだけ。

掃除哲学は松下イズムの根本にあります。掃除をして、ランニング、全員で食事。そのあとは、それぞれ自分の部屋に戻ってどう対応してもよい。自修自得ですから、どこかに話を聞きに行きたい人は行きなさいというふうに極めて自由でした。

ただ、二つだけ必修の研修があった。私のころは二カ月の工場研修と、

もう二カ月はナショナルのショップ

店に丁稚奉公に行きなさいというも

の。それらを通して、実社会のことを勉強する。松下幸之助さんが我々に言ったのは「君らは大学まで出て、勉強はもう十分に終わっている。知識ではなく知恵をつけなくてはいいけない。実社会でのいろいろな体験や境遇のなかで知恵は生まれるのだから、工場実習や販売実習をしまし

よう」ということでした。

### 出席者

松原 仁

二期生 民主党 衆議院議員

神風英男

七期生 民主党 衆議院議員

秋葉賢也

九期生 自民党 衆議院議員

松野博一

九期生 自民党 衆議院議員

坂井 学

一〇期生 自民党 衆議院議員

関 慎夫

司会 日本誌編集長

—— 神風さんは七期ですが、やはり五年の違いはありますか。

神風 工場実習などは同じくありましたが、そのほかに人間観の研修や宗教関係の研修を一年生の時にやりました。二年の後期になってからは、個人的にテーマを見つけて、それぞれで研修を進める。どこで、だれに指導を仰ぐかも含めて、自分で選ぶ。私は農業問題を取り上げたかったものですから、全国の農家を回って、農家の実態や農業政策の問題点を探りながらレポートにまとめるという作業をしましたね。

—— 松野さんと秋葉さんは同じ九期です。

松野 基本的には先輩方と同じですが、政経塾は毎年カリキュラムが変わっていたんです。自修自得という精神のためということもありますが、前例があるわけでもないのです。今年はおあししてみよう、来年はこうしてみようと、年ごとに違っていました。

—— ぼくらの時は一年間、基本的に座学でした。二年目からやりたい研修を設定して研修する形でした。

ただ、松下幸之助さんがご存命だったのは、ぼくらの九期まで。松下幸之助精神、松下イズムをどう勉強していくかというのがメインテーマとしてありました。一〇期の坂井君以降になると、今度は「弟子たちの



**松原 仁**  
2期生 民主党 衆議院議員  
1956年東京生まれ 当選3回

松原 仁  
— それはどう  
いう目的があった  
んですか。  
坂井 スクールだ  
と、単に塾生に対  
して教育するだ  
け。インスティテ

時代」と塾が言っていたと思います。  
幸之助さんが亡くなった後、今度は  
それぞれ一人一人が塾長になったつ  
もりで行動せよと。その時点で大き  
く方向性が変わってきたかもしれな  
いですね。  
秋葉 幸之助さんから、たった一度  
だけだったんですが、直接ご指導い  
ただく機会がありました。大阪の病  
院で、お話されている言葉も聞き取  
りづらいような状況でしたが、翌日  
としておられて、私どものいろんな  
報告に対して、深く頷きながら聞いて  
いただいたことを覚えています。  
そして先ほど松原先輩から工場実  
習の話がありましたが、八期からは  
松下電器の工場ではなく、OBが全  
国に育ってきたので、OBの皆さん  
の地元企業や会社で受け入れをして  
いただいた。現地現場主義の具体化  
を松下の工場から一般の地元へとい  
うスタイルに転換した時期です。  
— 坂井さんの一〇期は「弟子の

時代」のスタートになりますね。  
坂井 毎年、おそらく前の期、例え  
ば私らは一〇期だったもので、九期の  
塾生の反省のもとに一〇期を採って  
いるのではないかと（笑）。  
神風 反動でね（笑）。それくらい  
期ごとで塾生が違つた。  
坂井 入塾して、一カ月もしないう  
ちに幸之助さんが亡くなって、結局  
お会いできませんでした。でも、卒  
業した先輩方が塾に戻ってきて運営  
に携わるようになってきた時代で  
す。一番の変化は、一〇期までは新  
卒が多かったんですが、一二期から  
は社会人経験者を多く採るようにし  
て、そのうえ人数も一気に減りました。  
一〇期は一四人でしたが、次は三人  
になったんです。その代わり、何人  
かずつ、地方自治体から研修生を受  
け入れるなど、プロパーの塾生が一  
気に減りました。  
もう一つ、これは先輩方のいる時  
だと思ひますけど、松下スクールか  
ら松下インスティ  
テュートに変わっ  
たんです。

ただ、我われのころの入塾パンフ  
レットに、松下幸之助さんのメッセ  
ージがあったんですよ。「この塾で  
は、学校秀才型の人間は求めていな  
い。宮本武蔵やエジソンのような名  
人をこの塾でつくりたい」という言  
葉が書いてありました。なかなか政

政経塾の変質  
— みなさんが入塾される時は、  
幸之助さんはご存命だったわけだ  
が、政経塾にどのようなイメージを  
持っていたらしたんですか。なぜ入塾  
したかにも繋がりますが。  
神風 私のころは、小野晋也さん  
（二期）がやつと県会議員として当  
選をしたばかりで、国會議員が三〇  
名も誕生するというイメージはなか  
ったです。正直なところ、何をす  
る場所かもわからない状況ではあ  
った。

松野 逢沢先生は三代目ということ  
もあって、バックボーンが違います  
よね。実は僕は、候補者公募制度  
で国會議員になった第一号なんです  
よ。政治家を志すといつても、地  
盤・看板・カバンといった条件が整  
った人が政治家になるという風潮も  
強かったですし、政治家の秘書にな  
って勉強するとか、ルートがかなり  
限られていました。私自身地盤・看  
板・カバンもまったく縁がない環境

経塾という名前自体が社会的に認知  
されておらず、「どこの学習塾に就  
職するんだ」とか、右翼団体と間違  
えられたりとかしましたね。ただ、  
「松下幸之助さんに会える」という  
のも大きな魅力でしたし、評議員の  
方にも錚々たるメンバーがいっぱ  
いありましたんで、接する機会があ  
るだけでも魅力的でした。  
— 松野さん、秋葉さんの時代に  
なると、もう逢沢一郎さん（二期）  
が国會議員になっていましたね。  
松野 逢沢先生は三代目ということ  
もあって、バックボーンが違います  
よね。実は僕は、候補者公募制度  
で国會議員になった第一号なんです  
よ。政治家を志すといつても、地  
盤・看板・カバンといった条件が整  
った人が政治家になるという風潮も  
強かったですし、政治家の秘書にな  
って勉強するとか、ルートがかなり  
限られていました。私自身地盤・看  
板・カバンもまったく縁がない環境

ユートにすること  
によって、社会に  
研究成果をアピ  
ルする、政経塾自  
体がアピールをし  
ていくんだと。そ  
れまでは塾生は学  
ぶ場として政経塾  
に來たわけであ  
が、そこからは研  
究成果を塾に提供  
する研究員として  
入ってきなさいと  
いうことです。



**神風英男**  
7期生 民主党 衆議院議員  
1961年茨城生まれ 当選2回



## 秋葉賢也

9期生 自民党 衆議院議員  
1962年宮城生まれ 当選2回

どいかなかった。私  
らの同期は、政治  
家になりたい人は  
まず官僚になって  
いますね。  
松原 おそらく政  
経塾は、途中で変  
質した。松下さん  
がつくる段階は、  
政党をつくりたい

という意識があったと思います。

その政党の前身は二つあって、一  
つはいま流行の行政改革、民営化。

松下さんは「なぜこんなに苦勞して  
稼いだ金をとられるんだ」と、税金

制度に一晚中悩んだことを書いてい  
る。やはり松下さんは税金がムダに

使われていることを許せない。

当時、一期生の先輩が、民間の清

掃車と市営の清掃車に乗って、効率  
が二倍違うと発表した。つまり、片

方は二人で走ってやり、片方は三人  
で歩いてゆつくりやる。その差を発

表したとき、松下さんは激賞したん  
ですよ。つまり、行政の民営化とい

うのは生産性の向上。松下さんは政  
治・行政の生産性の向上をやらせた

いとずっと主張してきた。そういう  
なかで、プリンシプルを持った政党

をつくらうという意識はあったけれ  
ども、おそらくこれが頓挫した。

もう一つは、日本の昔からある旧  
来の伝統文化を大事にし、人間を大

事にすること。もっと誇りある日本  
をつくるための政党で、日本をつく

りながら政治の生産性を高めること  
を目指したのだと思います。

それがどこかで変わって、純然た

る教育機関みたいなニュアンスがよ  
り強くなった。ただ、幸之助さんの

偉大なところは、人をつくることに  
力ネを投じたことです。それは

脈々として政経塾に残っていて、  
「塾生・塾調・五誓」はいまでも言

われているし、社会に出て何が政経  
塾出身者の原理原則かと言うと、こ

れしかない。茫洋として個別的じゃ  
ないから、いつの時代でも通用する。

幸之助さんが自分の思い通りになら  
ないことまで想定して骨格を作って

いたから、現在まで続いている。

## 「根拠なき自信」を与える

松野 個々の塾員は、目標設定に関

してぜんぜん違いました。だけど、  
自分が設定した目標に対して、どう

すればその実現に  
向かえるか、いわ

ゆる松下成功哲学  
みたいなものを学

ぶ場所だったんだ  
ろうと思います。

松原 それはある  
ね。

松野 松下幸之助  
さんは、採用の基



## 松野博一

9期生 自民党 衆議院議員  
1962年千葉生まれ 当選3回

準として、うんと愛嬌がある人を探  
ったそうです。「自分は経営者とし  
て、同業者や問屋、小売店と、何万  
人という人間と長い間つき合ってきた  
から、その人の顔を見るだけで、  
この人が成功するかどうかかわか  
る」という話をされていました。そ  
して「あんなたちは、顔をパツと見  
て、必ず成功する運気を持っている  
人間だから塾に入れた」という話を  
する。これは塾生に「根拠なき自信」  
を与えるんですね(笑)。非常に単  
純な話なんですけど、実は単純な話と  
いうのがイザという時の自分の行動  
を支える柱になる。

秋葉 我われのころは県会議員にな  
ること自体が大変なわけですよ。そ  
のなかで松野さんは、もう俺は国会  
へ行くんだということを言っていま  
したね。当時、チョクシユウという  
言葉が流行っていたんです。

—— どういう意味ですか？

秋葉 直接衆議院＝直衆(笑)。選

挙の基盤がないわけですから、地方議員の経験をして基盤をつくってから国政に挑戦というのが、もっとも一般的ですよ。

先輩方から受け継いできたエピソードが、私にとって大きかったです。政経塾が作られたころ、幸之助さんが茅ヶ崎の塾に来ると、茶室で寝泊りされていたそうです。ある日、塾生が身の回りのお世話に茶室に入った時、目を真っ赤にして起きていて、「日本の将来をいろいろと思い、考えをめぐらせたなら、不安で昨夜は寝つけへんかった」とおっしゃった。私はこれを先輩から聞いた瞬間、この塾に来てよかったと思いましたね。政治家という手段を通して、幸之助さんの思いなり、自らの理想なりを具現化してこうと決意しました。大変インパクトがあった。

松野 こころざし論とか、そういう世界ですよ。客観的に見て、アカデミックなレベルで政経塾が優れているとは思わないし。政策研究だったら霞が関やシンクタンクのほうが優れているでしょうし、一般の社会的な実務においては、企業にいるほうがよほど実務処理能力が高まるわ

けですから。ではいったい政経塾は何が優れているんだというところ……。松原 「根拠なき自信」(笑)。でもこれは大事だよな。

松野 成功哲学的な思い論とかこころざし論に支えられている。その証拠に、政党はみなバラバラですからね。

神風 松原先輩の当時は、松下幸之助塾長が月一回来られて、直接指導を受けられたんですが、我われの時にはだいたい弱られてきたんで、会うチャンスは年一回だけでした。

そのころには、政経塾自体を閉鎖したほうがいいという話もありました。松下幸之助の私塾としてスタートしながら、松下幸之助はもう直接指導できない。私塾としての意味がない。政治家の数を増やすことが目的ではないという意見も相当ありました。三期生くらいまでは幸之助さんの思いに直接触れて、「こういう政治を目指す」みたいなものが強いと

思います。我われのころになると、もうそれもない。逆に、自分で追求していくみたいなのがある。いま、ある程度議員の数が出て、形にはなっていると思うんですけど、当時幸之助さんが目指していた形かどうかは、ちょっと違うだろうという気がしますね。

松原 私は、実は別の会社に内定していて、その企業を振って政経塾にいくのは賭けみたいなものでした。賭けだからこそ、さつき松野さんが言ったように「根拠なき自信」に支えられて。そういった意味では、当時のほうが誇大妄想的にいろいろ語っていましたね。つまり「松下村塾を超える」みたいな。じゃあいま、松下村塾を政経塾は超えているかと問われると、どう?

坂井 ウーン。

松原 松下村塾出身よりも政治家は増えているかもしれないけど、超えたか?そこは若干、忸怩たるものが、私はありますよ。

松野 統一した政策目標がないですから、個々人の志に向けて、どうそれを実現していくのかということなんだと思うんですよ。

一つにはカリスマから与えられたパワーであるし、もう一つは、心理的なハードルが低くなること。選挙に立候補するにしても、企業を立ち上げるにしても、通常は相当な決意

がいるわけです。しかし政経塾のなかにいると、次から次へと塾の先輩が立候補しているから、それが当たり前前の世界になる。塾にしていると心理的なハードルが低くなるんでしょうね。行動が起こればやすくなる。そのあと、うまくいくかは本人のいろんな要素がありますが。

坂井 それは間違いなくありますよね。国会議員が三〇人まで増えたの

## 塾 是

真に国家と国民を愛し  
新しい人間観に基づく  
政治・経営の理念を探索し  
人類の繁栄幸福と  
世界の平和に貢献しよう

## 塾 訓

素直な心で衆知を集め  
自修自得で事の本質を究め  
日に新たな生成発展の  
道を求めよう

## 五 誓

- 一 素志貫徹の事
- 一 自主自立の事
- 一 万事研修の事
- 一 先駆開拓の事
- 一 感謝協力の事



**坂井 学**

10期生 自民党 衆議院議員  
1965年東京生まれ 当選1回



塾生とともに討論する松下幸之助。(1980年撮影)

は、立候補する人が多くなった結果であって、まずは「立候補できる」と思えるのが大きいと思いますね。松野 よく言えば、挑戦できる勇氣が備わる心理的な環境があった。

—— 松下政経塾の認知度が上がったのは、細川護国さんの日本新党で大量立候補した時ですね。

松原 政経塾をつくった直後は大変なブームで、私の期は入塾希望が九〇〇人殺到して二三人入った。マスコミが退去して押しかけて、言っ

みれば閉塞感のある日本で、期待感があつた時代だと思ふんですよ。その後停滞して、次の山が新党ブーム。若手が出るチャンスがあつたかもしれないけど、松野さんが言うように、成功哲学というか、運が強いという「根拠なき自信」から、どんどん出て行つたんじゃないかと思ふんですよ。

松野 日本新党ができて、大量の新人議員が出た時、社会的な評価は、根無し草の、ブームに乗つただけであつた。次は選挙では一人もいなくなるよというのが九割方の論調だつたんですよ。しかし、政党の離合集散があつたけど、その時々に対応して、みんな生き残つていくわけですよ。やはり政経塾で身につけた何か、根底で効いているんじゃないかと思ふんですね。

## 政党形成としての政経塾は頓挫

—— 政経塾で学んだもので、現在に続いているものにはどんなことがありますか。

神風 現場主義というのが一番ですかね。幸之助さんは新製品が出ると、社員に

現場を見に行つたかと思ひました。行つていないと烈火のごとく怒つたという話を聞きます。やはりいまの日本の政治は、霞が関が主導していて、なかなか現場を見ない机上の空論的な数字だけ追つていっている部分があるんですね。

坂井 私が目を開かせてもらったのは、形而上的な、宗教心のようなもの。目に見える現象ばかりにとらわれていた自分が、自然の理とか法、目に見えないものを勉強させてもらえたことが、個人的に一番大きいですかね。

松野 ただ、一方で超リアリストだしね。理想主義的であつて超現実主義者、そのへんのバランスが大事なんだろうな。

—— 党派の違いはどのように受け止めていますか。同じ学び舎から巣立つて、なぜ分かれるのかなという疑問があります。

秋葉 自民党も民主党もいろいろありますが、党派を超えて信頼できるところがあつた。政経塾、あるいは幸之助さんというきっかけ、そういう仲間が存在というのは大きなことだと思います。

神風 政経塾で政党をつくるという話は、我われのころにもあつて、一つにまとめる方法を考へていた塾生は多いと思います。ただ、現実的に新党をつくるまでには、我われの力

だけでは至らなかつた。

松野 統一した政策の方向性を打ち出すとか、ある政治学や経済学の理論に則つて、みんなが勉強したというのではないですから。

松原 厳密には、初期のころはあつたと思いますよ。松下政経塾をつくつた時の幸之助さんのねらいは二つ、新国土創世と無税国家です。そこに行政の生産性の向上を含めて、三本柱だつたと思ふんだよね。無税国家論に関して言えば、塾生と塾長が議論したこともある。「わしはできると思ふんや」「いや、絶対できません」と。そういういろんな議論



政経塾を超えて、松下イズムを継承する。(左から秋葉議員、松野議員、松原議員、神風議員、坂井議員)

をして、結局、松下さんの存命中に、一つの政策にはできなかった。

## 松下イズムの発信基地

—— 松原さんは選挙区で卒業生同士で戦ったことがありますよね。

松原 例えば早稲田大学の卒業生同士が小選挙区で争うことはしよつちゅうでしょう。それと同じなんです。逆にそれがないと、それこそ不自然であって、やらせになつちゃうよね。一つの具体的な目標をもったパーティ、政党であれば別だけど、人材育成というところに政経塾自体が舵を切った以上はね。

秋葉 一つの目的で一つのパーティだけに特化するの怖いですよね。「国土創世」にしても、その方向性を実現するやり方は、それぞれいろんな道があるよということに分かれています。

—— これからの政経塾への期待や

要望みたいなものはありますか。

松原 伝統としてずっと続いてほしいということが一つ。そして、松下幸之助さんの意思というものがあるので、さっきの議論と矛盾しますが、各個バラバラに活動していいのだからかと。超党派で何かやるようなことがあってもいいんじゃないかという期待感を持っています。

神風 いまの一年生が二七期。そうすると、自分の子どもくらいの方が在塾生です。松原先輩や自分らの期は、感覚が近いものがあると思いますが、二〇期以降はずいぶん違うのではないかと思います。大臣が出たり、国会議員が三〇人いるという数は出ていますが、それが政経塾の成功かといえそうではない。原点に戻って議員も在塾生も含めて、何かを目指していかないといけないという思いはあります。

松野 松原さんとは違いますが、政

経塾が集合として何かをしようという意識はないんです。それよりも、政経塾で学んだ各個人が、それぞれの人間力を高めて、それで活動して社会貢献をしていくことが、政経塾出身者としての生き方なんじゃないかと思っています。

幸之助さんがおっしゃっていた大事な二つの要素、「宇宙の真理」と「人間把握」という考え方を通しての人間力養成機関だったり、松下イズムの研究機関であつたり、そういう方向で発展していったらいいなと思います。

秋葉 政経塾、幸之助さんの教えについてのは、本当に普遍的なものだと思います。「とにかく政治をよくしていかなければダメなんだ」という、漠とした思い一つとっても、これは本当に受け継がれていくべきものの。一つのきっかけを与える場であり、それぞれの塾生が、きっかけの

中で自らいろんなものを学び、感じとり、会得しながら成長していく。

坂井 松下幸之助の思想、考え方というのが、これから年が経つにつれてどんどん薄れていくと思います。会社を経営するのは経営だけれども、国を経営するのが政治だということ、やっぱりコツがある。ものすごく価値がある松下幸之助の考え方の発信基地として、政経塾が役割を果たしてもらいたい。我々がOBとして、政経塾が価値あるものを発信していることを、いろんな分野で実績を残すことによって、見てもらうことが大事ではないかと思っています。

—— すでに大臣が出て、最大野党の党首が出られたわけですから、次は総理ですね。

松野 いつ、誰かはわからないですけど、いずれはそういう時が来るでしょうね。

**B**

## 誕生から26年。現在、 国会議員は30人

松下政経塾は、一九八〇年に第一期生を迎えた。その設立趣意書にこうある。

「二二世紀の日本を良くしていこうという有為の青年を募り、実社会生活の体験研究等を通じて、正しい社会常識と必要な基本理念、経営の要諦を体得するまで育成したい。彼らが将来、為政者として、あるいは企業経営者として日本を背負っていくとき、そこに真の繁栄、平和、幸福への力強い道が開けていくものと確信する……」

松下幸之助は、戦後の一時期、公職追放され、さらには松下電器が財閥指定を受けたこともあって、国家というものに拭いがたい不信感を持っていた。

「いくら企業が社会に貢献し、成長しても、国の制度が変われば、いつまた犯罪者のような扱いをされないともかぎらない」

晩年の幸之助はこう考え、二度と不幸な社会にしないためには、指導者を自らの手によって育成したい、と考え、政経塾に私財一〇〇億円を

投じ、開塾した。「経営の神様」の私塾とあって評判を呼び、第一期生の募集の際には、九〇〇人が殺到、その中から二三人が選ばれている（現在は毎年六〜八人程度が入塾する）。

場所は神奈川県茅ヶ崎市にあり、全寮制を貫いている。授業料はなく、塾生には毎月二〇万円程度の研修資金が支払われる。また二年目以降は、年間一〇〇万円ほどの活動資金が支給される。

入塾期間は、かつては最長五年だったが、今では二年ないしは三年。そのカリキュラムは、一年目は「修身」と位置づけられ、幸之助の教えを学んだりしながら人間観・歴史観・国家観を探究する。自衛隊の体験入隊や営林所での実習など、体を使った研修もある。

二年目（立志）、三年目（自立）となると、そのカリキュラムは塾生個々にかなりと任ぜられることになる。政治、企業でのインターンシップなどもあるが、基本的には自分でテーマを決め、自分でその世界に飛び込んでいく。

卒業後の進路だが、これまで三〇〇人近い卒業生を送り出しており、そのうちの約半数が政治家やその秘書など、政治の道を選んでいる。三割は経済界を志し、残りの二割はマスコミや研究機関へと進んでいる。

初めて国会へ議員を送り込んだのは、開塾六年後の一九八六年。一期生の逢沢一郎氏が、この年の総選挙で初当選を果たしたのが最初だった。政界での存在感を一気に増したのが、一九九二年の日本新党の結成だった。ここに卒業生の多くが結集、この年の参院選、翌年の総選挙で、政経塾出身議員の数は一気に二桁に増えることになった。

以来、政経塾出身者は、国会の中で一大勢力となる。現在の国会議員数は三〇人（参議院二人）で、自民一六人、民主一四人という構成だ。初めての大臣は、二〇〇四年、第二次小泉改造内閣で、伊藤達也氏（五期生）が金融担当大臣に就任したのが最初だった。現在は、高市早苗氏（五期生）が沖縄・北方・少子化担当大臣に就いている。

野党・民主党における卒業生の存在感は、自民党以上。特に「偽堀江メール」で失脚した前原体制は「政経塾執行部」といつていいほどの陣容で、前原誠司代表（八期生）、それを支えた野田佳彦国会対策委員長（二期生）も出身者だった。

幸之助は、本来なら「政経塾党」というような政党に近いものを、卒業生には結成してほしかったといわれている。その夢は実現していないが、出身者が政権を取る日は、意外と近いのかもしれない。



神奈川県茅ヶ崎市にある松下政経塾。